

個人投資家様向けIRセミナー

イワキ株式会社
ご説明資料

2021年1月19日(火)

(東証第1部:8095)



イワキ 株式会社

イワキグループ、40年ぶり2回目の成長期

イワキ株式会社

代表取締役社長
岩城 慶太郎



2030年11月期目標
売上高**1300**億円
ROE**13.0%**



創業1914年
設立1941年

東証2部
上場

東証1部
指定

中長期
ビジョン
発表



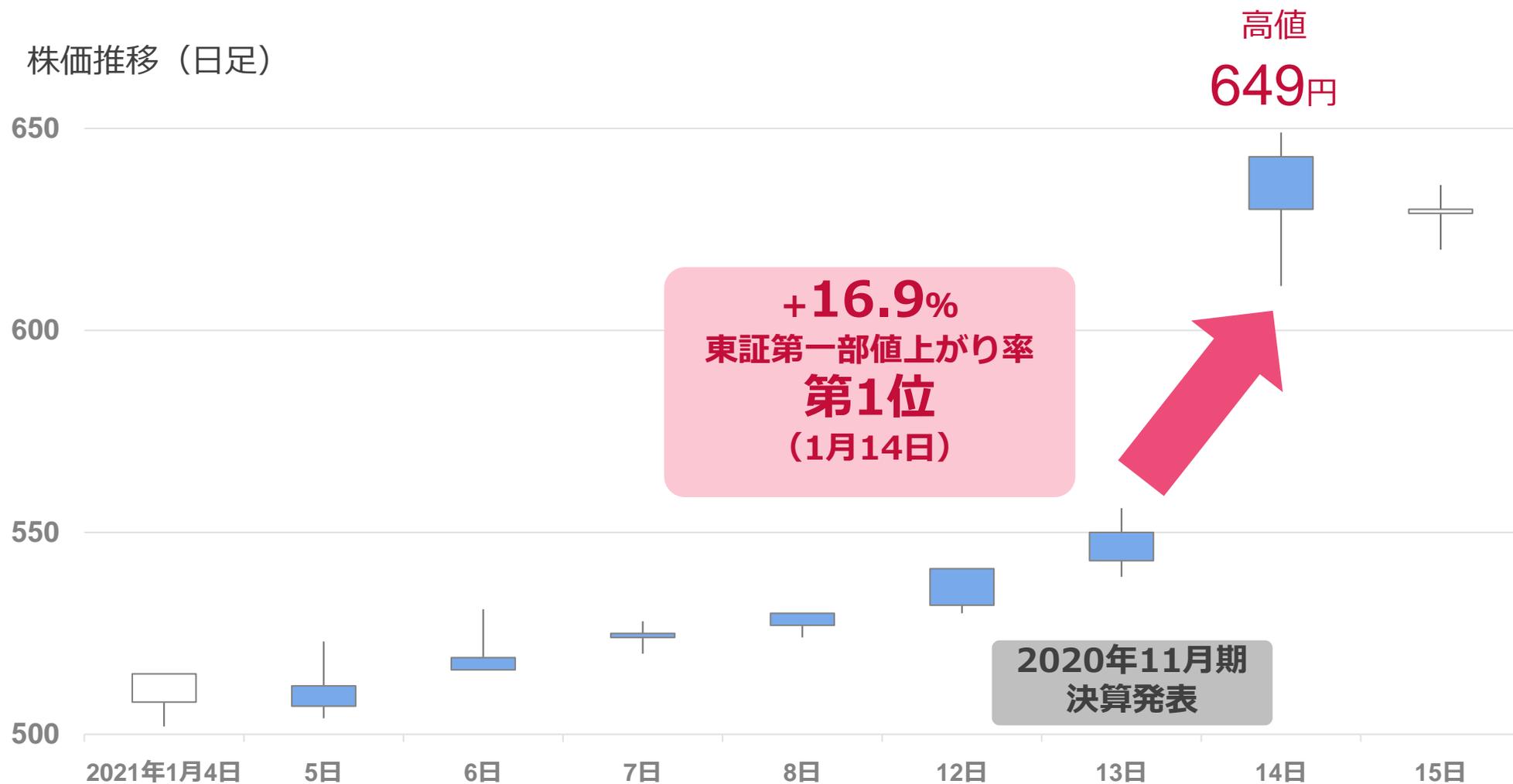
2020年11月期、 売上高&当期純利益が創業来最高更新

	実績	前期増減額	前期増減率
売上高	653.4億円	+36.9億円	+6.0%
営業利益	20.3億円	△0.9億円	△4.1%
経常利益	19.6億円	△3.5億円	△15.1%
親会社株主に帰属 当期純利益	19.8億円	+4.5億円	+29.4%
E B I T D A	34.0億円	+4.7億円	+15.8%

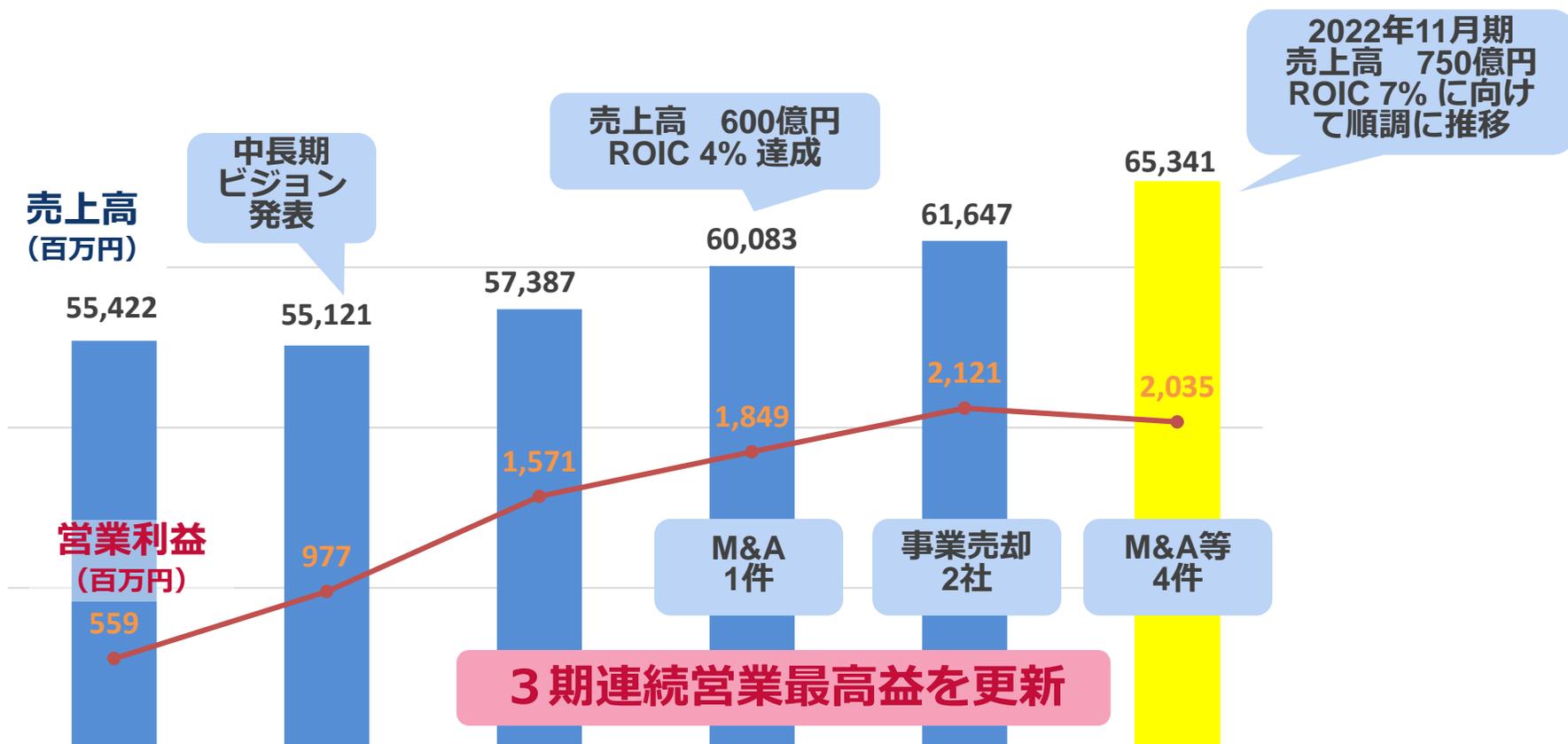
創業来
最高

創業来
最高

決算発表と同時に株価は急騰



2020年からROEは9%台に突入している



	2015/11	2016/11	2017/11	2018/11	2019/11	2020/11	2015/11-2020/11
ROE	▲0.8%	0.0%	7.2%	7.6%	7.7%	9.4%	+10.2pt
ROIC※	1.7%	3.2%	5.4%	6.0%	6.3%	5.4%	+3.7pt
営業利益率	1.0%	1.8%	2.7%	3.1%	3.4%	3.1%	+2.1pt

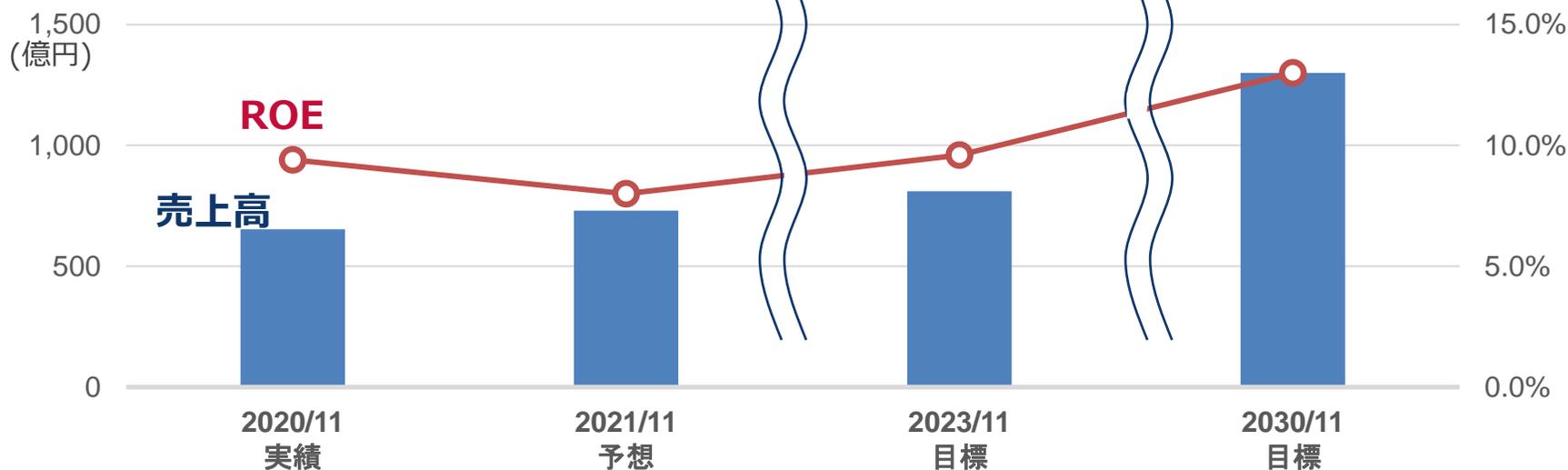
※ROICの投下資本にはM&Aに関わるのれん、技術資産、顧客関連資産の無形固定資産を含まずに算出しております。

株価水準は5年間で約3倍に



2030年ROE13%以上が目標

	2020年11月期 (実績)	2021年11月期 (予想)	2023年11月期 (目標)	2030年11月期 (目標)
売上高	653億円	730億円	820億円	1,300億円
営業利益	20億円	26億円	42億円	
ROE	9.4%	7.7%	9.7%	13.0%以上



8095 イワキを取り巻く 3つの疑惑

8095イワキの疑惑①

あれだけ「コロナ銘柄ではない」と言っておいて、 実はコロナ銘柄なのではないか？

イワキ株式会社（8095） 2020年11月期 決算短信

(4) 今後の見通し

当社グループを取り巻く事業環境は、新型コロナウイルス感染拡大の防止策を講じるなかで、各種政策の効果や国内外経済の改善が期待されるものの、依然先行きの不透明な状況が続いており、新型コロナウイルス感染拡大による社会経済活動への影響が国内外経済を下振れさせるリスクに十分注意する必要があります。

このような状況のもと、当社グループでは、各事業での主要施策の展開に注力してまいります。

ファインケミカル事業

医薬品市場は、広範囲の品目に対して薬価改定が実施される見込みであり、ジェネリック医薬全般における市場鈍化が懸念される状況であります。その一方で、次期を含め、**中期的にはワクチン開発を検討する企業の増加やバイオシミュレーションやオーソライズドジェネリックの開発・販売が進む事も想定しております。**

このような状況のもと、販売面は、新規医薬中間体ビジネスに注力しつつ、高薬理活性原薬の新規採用や新規添加剤ビジネス開始による売上高寄与への取組を実施いたします。また、グループとして最適な営業体制の構築と案件獲得を推進いたします。製造面は、不採算品目の見直しを継続して推進いたします。

医薬品CDMO市場は、医薬品開発におけるモダリティの多様化が加速しており、なかでもバイオ・高薬理活性医薬品市場の拡大に伴う外部委託需要が高まることを想定しております。

このような状況のもと、販売面は、当社グループとして最適な営業体制の構築による営業力の向上と案件獲得を推進いたします。またサービス面は、当社グループが持つ多様な策を複合的なソリューションとして顧客へサービス提供するとともに、大型設備投資を含めたバイオ・高薬理活性医薬品関連のサービスの拡充を推進いたします。

医薬事業

医療用医薬品市場は、2021年4月の中間年薬価改定の影響に加え、新型コロナウイルス感染症収束まで医療機関受診抑制が続く、厳しい環境が予想されます。**一方、新型コロナウイルス感染症治療薬や各種高活性医薬の開発進展に伴い、バリューチェーンの各段階における委受託が増加することも予想されます。**

このような状況のもと、医療用医薬品におきましては、法令遵守の下、事業開発による新製品や新規ビジネスの獲得、自社製品の上市に向けた研究開発活動とともに、製品品質、安定供給体制の堅持並びに積極的な情報提供活動を通じ、お客様からの信頼向上に引き続き取り組み、境界領域におけるグループシナジーの追求を進めてまいります。

決算短信の
「今後の見通し」で
ワクチンや治療薬に
言及している！

8095イワキの疑惑②

株主重視のフリをしながら、MSワラント発行など 既存株主を軽視しているのではないか？

自己株式を活用した第三者割当による

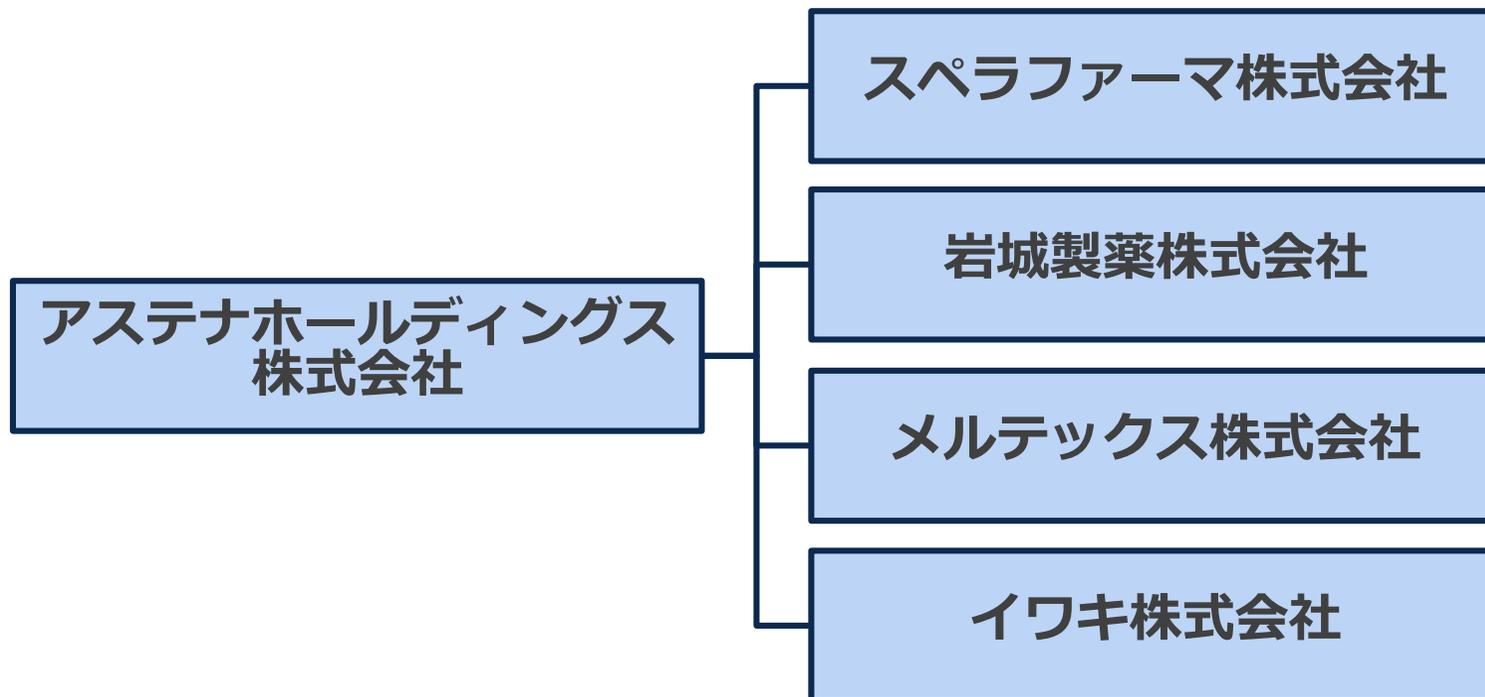
第1回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行及びファシリティ契約の締結に関するお知らせ

- 割当日 :2020年12月16日（水）
- 発行新株予約権数 :67,200個（6,720,000株）
（潜在株式数）（ターゲット・プライス毎の内訳は以下ご参照）
- 希薄化率 :19.91%
- 想定調達額 :約42.3億円（差引手取概算額）
- 行使可能期間 :約3年間（2020年12月17日～2023年12月18日）
- 当初行使価額 :630円
- ターゲット・プライス :①630円（対象本新株予約権個数：50,000個）、
②700円（対象本新株予約権個数：17,200個）
- 行使価額修正 :新株予約権の行使効力発生日前営業日のVWAP×92%に修正
- 下限行使価額 :350円（決議日前営業日終値×65%）

8095イワキの疑惑③

実はアステナホールディングスという無名の会社
に買収されたのではないか？

2021年6月以降の企業集団の状況（予定）



イワキ・グループは2021年6月に持株会社体制に移行し、

アステナ ホールディングス(株)

に名称変更する予定です。

アステナは「**明日**（未来）」と「**サステナブル**（持続可能）」の造語であり、新たな経営・ガバナンス形態の下で、アステナ・グループのステークホルダーである皆様と当社自身が持続的に健やかな未来を迎えられる願いを込めております。

さて、イワキ（アステナ）は 何をしている会社でしょうか？

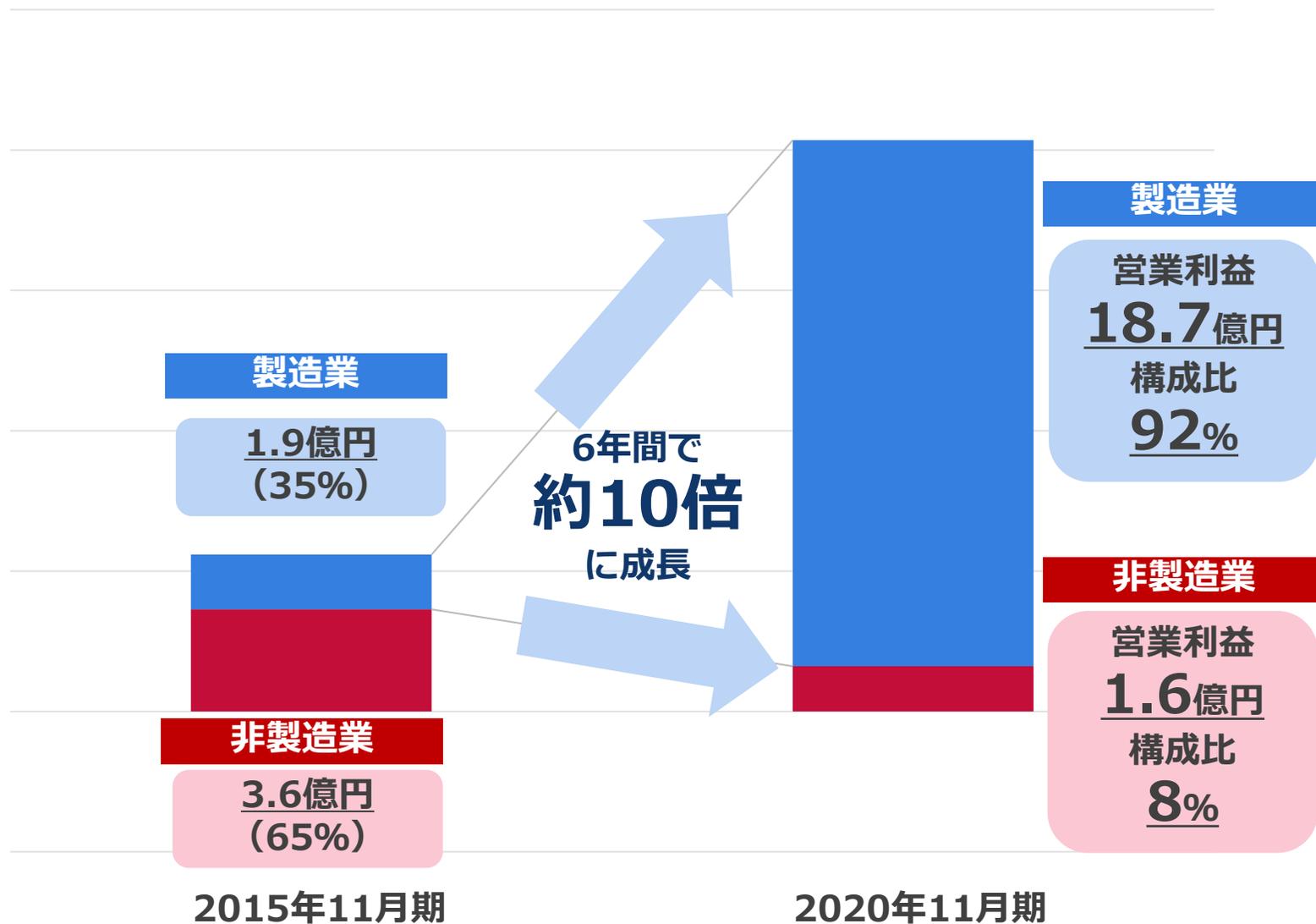
ちなみに、Wikipediaには相変わらず「医薬品卸」になっています。
どなたか編集してくれませんか・・・？

「医薬品卸」の売上比率は **14.4%**

売上高構成比	研究開発	原材料製造	流通	製品製造	卸売	小売	計 (事業別)
ファインケミカル事業	CMC研究開発 50億円	医薬品原料BU 37億円	128億円	佐倉工場			214億円 (33%)
医薬事業	新設			医薬品BU 103億円	医療機器BU 4億円		106億円 (16%)
HBC ・ 食品事業			化粧品BU 40億円	23億円	ファルマネットBU 94億円 (14.4%)		258億円 (40%)
		食品原料BU 3億円	97億円				
化学品事業		表面処理薬品BU 53億円 表面処理設備BU 14億円	スパシャリティマテリアルBU 6億円				74億円 (11%)
計	50億円 (8%)	108億円 (17%)	272億円 (42%)	126億円 (19%)	98億円 (15%)		653億円 (100%)

※連結消去の記載を省略しているため合計がありません。

もはや、卸売業ではない



3つの基本戦略、7つのビジネスモデル

① 策揃え

プラットフォーム戦略

-CMC(Chemistry, Manufacturing and Control)

医療用医薬品の研究開発を、国内トップレベルの水準で受託

-ヘルスケア調達プラットフォーム

医薬品・化粧品・機能性食品製造販売会社の全ニーズをカバー

-創薬インキュベーション

CMCの提供を通じて、新薬開発の成功確率を高める

-CDMO

医薬品（注射剤・外皮用剤・治験薬）を受託製造

② No.1

ニッチトップ戦略

-外皮用剤ジェネリック医薬品

国内塗り薬ジェネリック医薬品市場No.1

-ハイエンド表面処理薬品

エレクトロニクスに特化した表面処理薬品。

③ 社会変革

ソーシャルインパクト戦略

-シニア・アクティベート

化粧品・機能性食品の提供を通して

「シニア総アクティブ化」を目指す

ファイン
ケミカル
事業

医薬事業

化学品事業

HBC・食品
事業

新規事業

ファインケミカル
事業

CMCは どんなビジネスか？

スペラファーマのホームページには・・・



↑こう書いてあります。
(青い部分がCMCのお仕事)

医薬品ができるまで

CMO

-Contract Manufacturing Organization

創薬研究



合成法検討
品質設計



製剤化
処方検討



薬事申請

CMC

- Chemistry, Manufacturing and Control



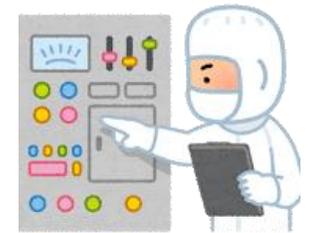
非臨床原薬製造



治験薬製造



原料製造



製剤製造

CRO

-Contract Research Organization



非臨床試験

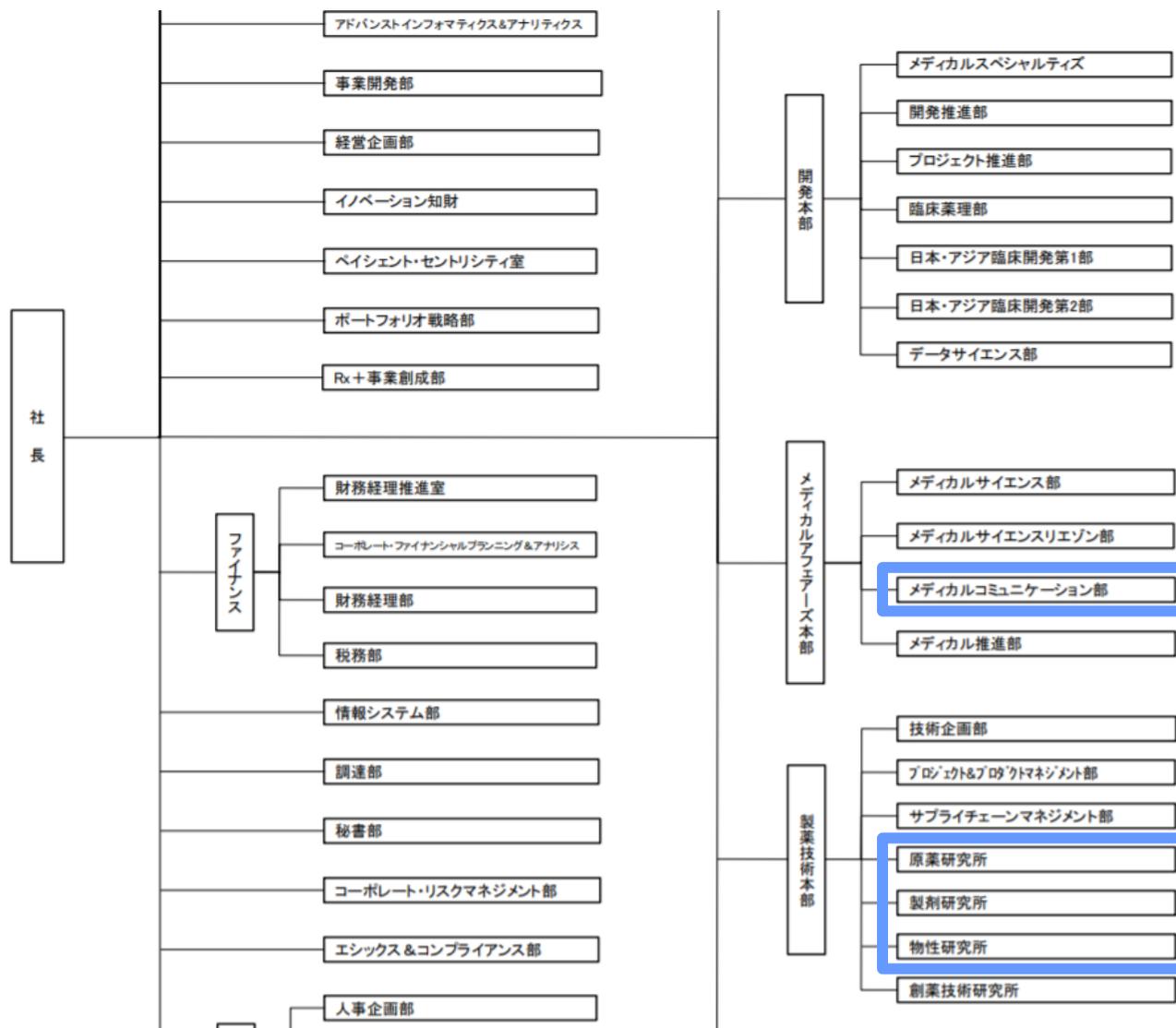


臨床試験

製品



通常、CMC部門は製薬会社の「中」にある



※アステラス製薬株式会社ホームページより引用

武田薬品工業は2017年にCMCを切り出した

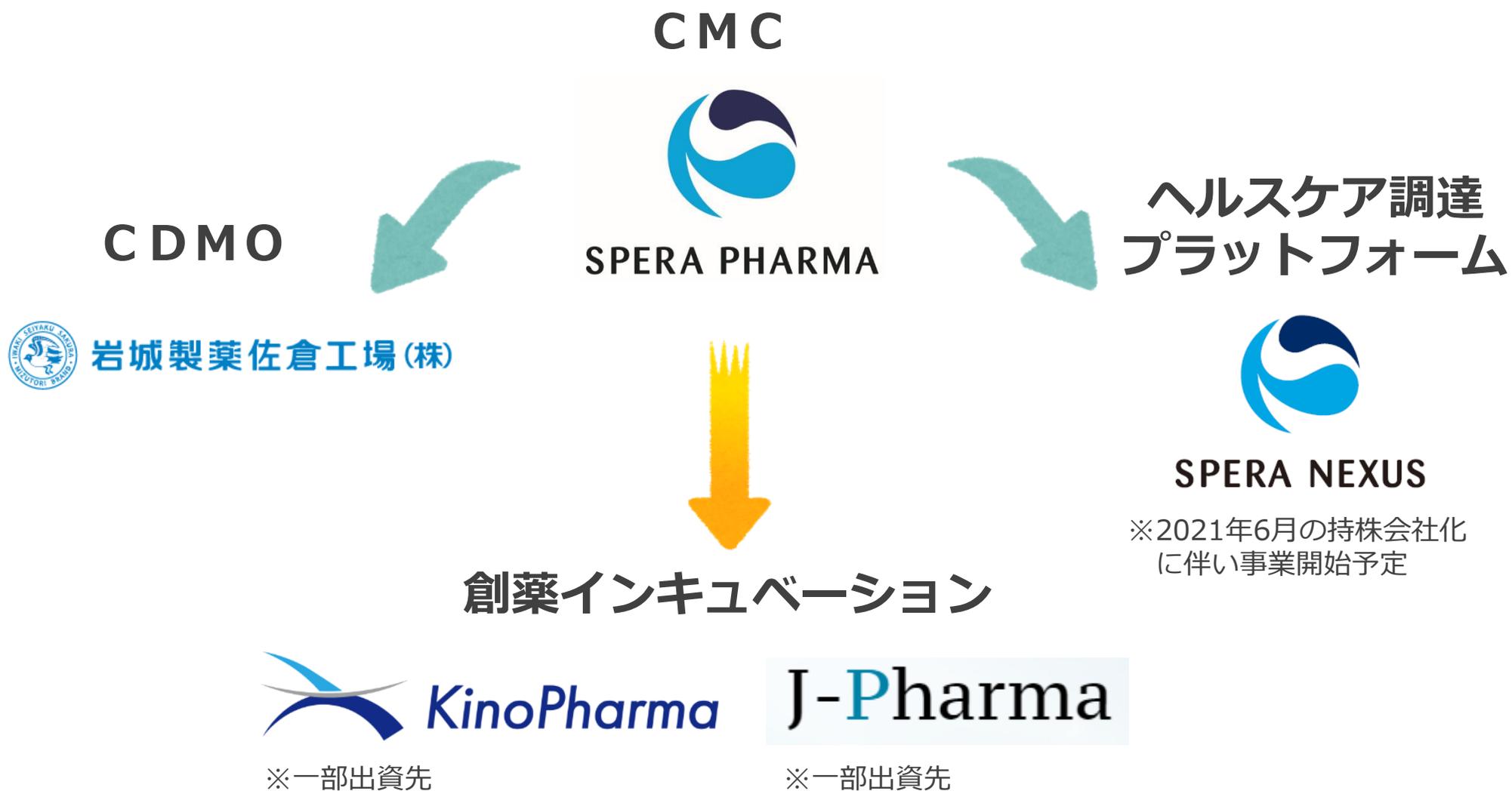
2017.07.01



武州製薬グループは武田薬品との戦略的パートナーシップのもと、CMCに精通する研究者・技術者を中心とするメンバーが武田薬品からスピンアウトし、武州製薬の100%子会社「SPERA PHARMA」として2017年7月1日より事業を開始しました。

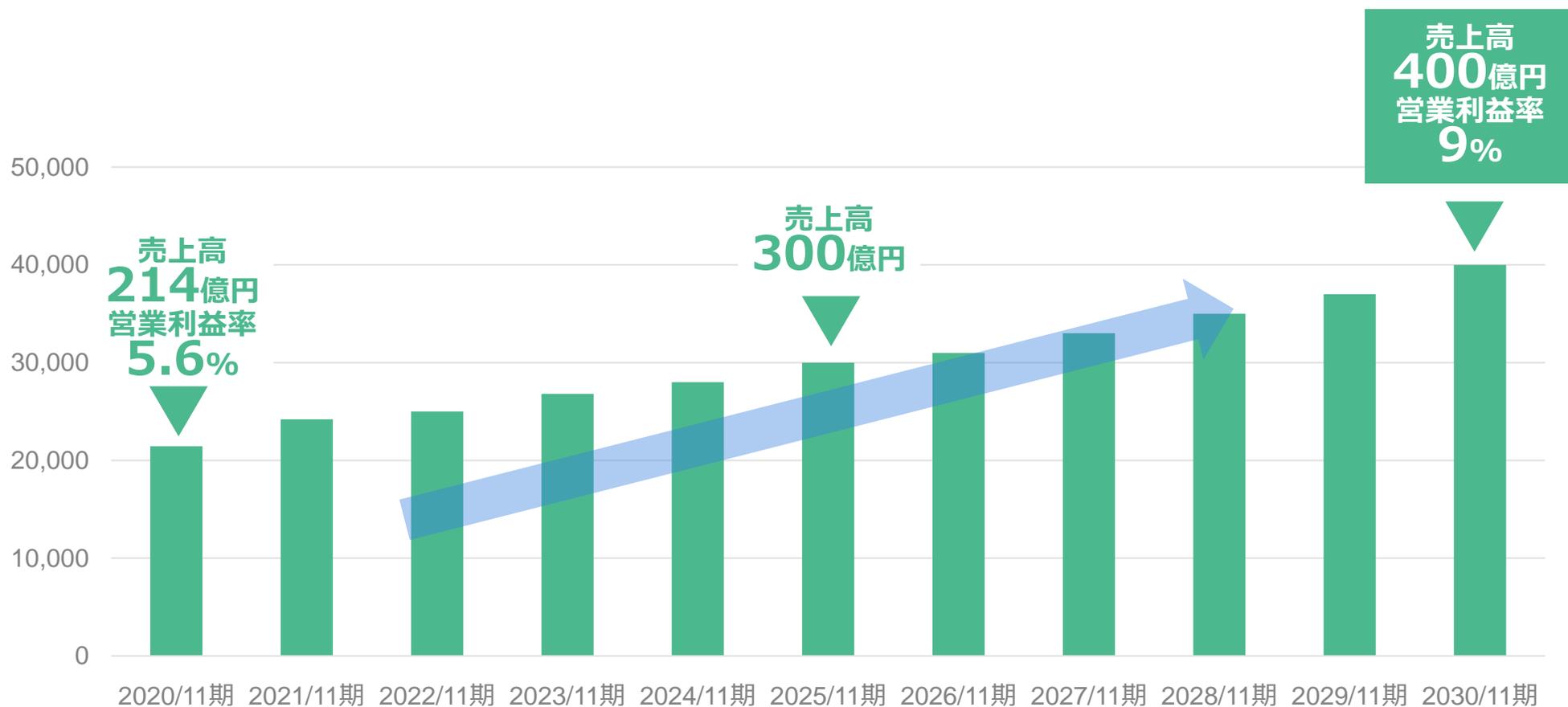
※スペラファーマ株式会社のホームページより引用

スペラファーマが当社グループにもたらすもの



ファインケミカル事業

：スペラファーマを中心に、
今後の当社グループの成長ドライバーになる



化学品事業

半導体はどうアツいのか？

「半導体が足りない」は事実。

世界的半導体不足で自動車減産、新型コロナで需要急変への対応困難

2021.1.16 19:34 | 経済 | 産業・ビジネス



需要の急変に
半導体業界は対応しづらい

半導体メーカー

スマホ、PC、ゲーム機、
テレビ、5G設備、
データセンター、産業機械…



用途に合わせ発注

ファウンドリー（受託製造会社）

設備の範囲で割合を決め生産

増産 巣ごもり消費関連
(PC、家電…)

不足 自動車用(運転制御、カーナビ…)

パワー半導体(EV、発電機…)

> その他の写真を見る (1/3枚)

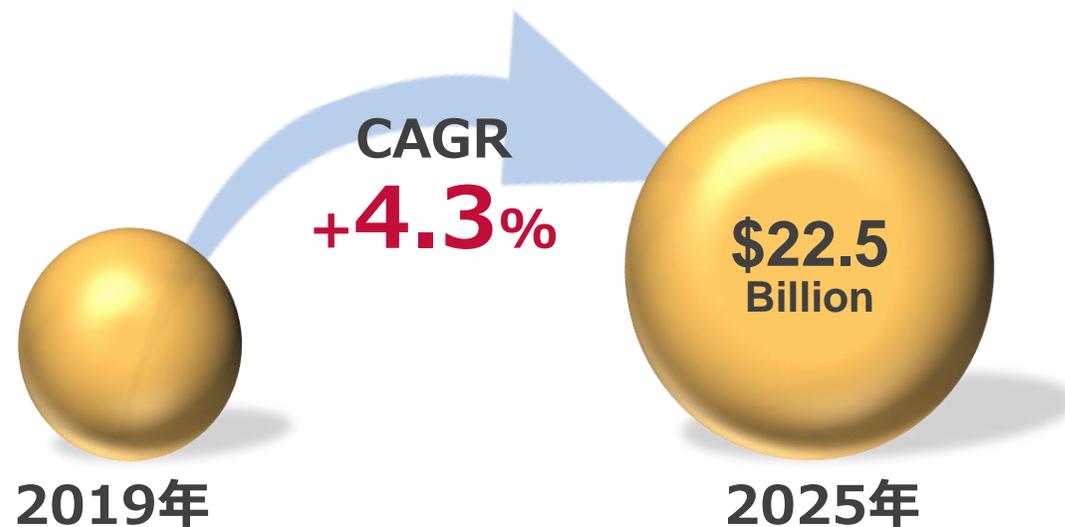
世界的な半導体不足で国内外の自動車メーカーが減産に追い込まれている。新型コロナウイルス感染拡大に伴いパソコンやゲーム機向けなどの需要も急増し、半導体メーカー側が対応しきれない事情がある。自動ブレーキや運転支援など機能の高度化で、1台あたりに使用する半導体の使用量が増えていることも背景にある。業種を超えた半導体の争奪戦が見込まれる中、製品不足が長期化する可能性もあり、海外依存体質の日本企業は在庫計画の見直しが急務だ。

半導体不足を受け、トヨタ自動車は米国で1車種の減産を決め、ホンダは1月に小型車「フィット」などを国内で月4千台ほど減産する。日産自動車も

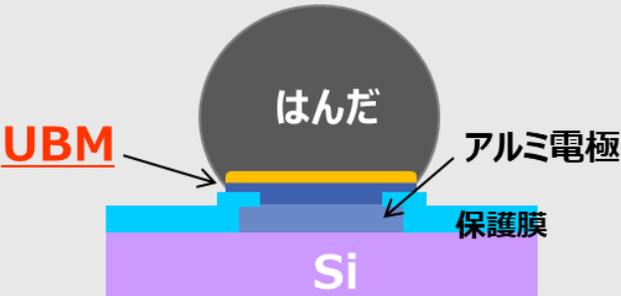
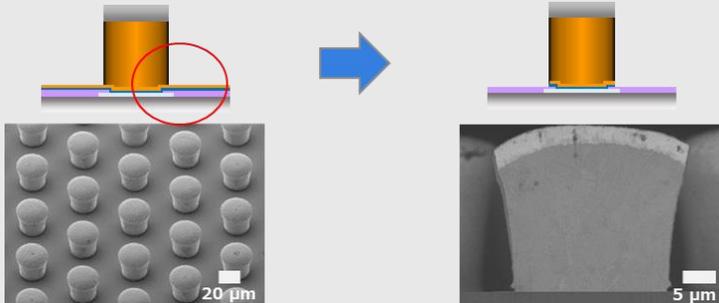
※産経新聞のホームページより引用

ただし・・・

「確かに伸びる」が「爆増」ではない。

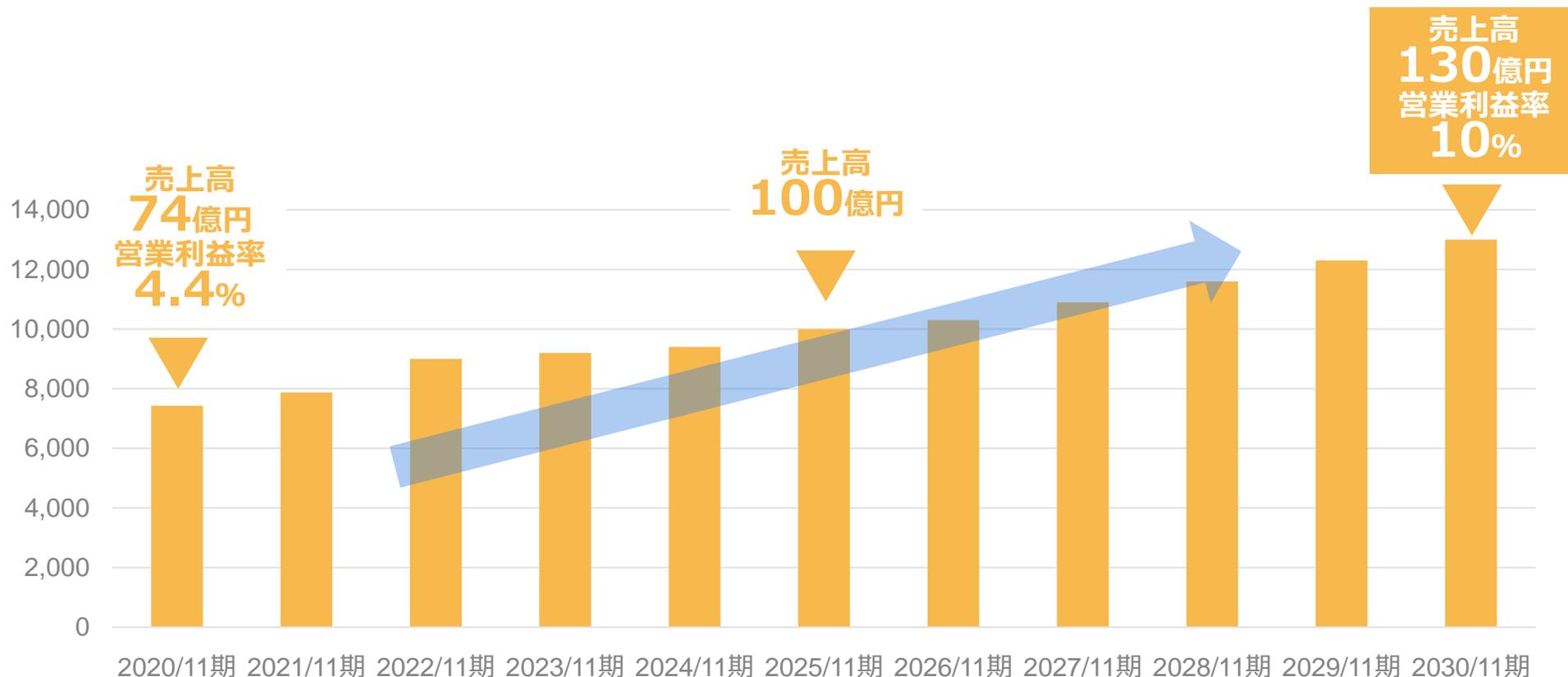


当社の技術は 「パワー半導体」と「センサーモジュール」向け

分野	UBM (Under Barrier Metal)	シード層エッチング
用途 目的	半導体チップ接合用 アルミ電極上へのUBM形成	半導体チップ接合用 バンピングプロセス
	 <p>はんだバンプの断面模式図</p>	
顧客	国内：大手デバイスメーカー およびめっき加工メーカーで 海外：欧州/中国/台湾	国内・海外の大手メーカー

化学品事業

: 売上の爆増は無いが、利益率は確実に上がる



当社グループの 今後の見通し

2021年11月期連結業績の見通し

	見通し	前期増減額	前期増減率
売上高	730億円	+76.6億円	+11.7%
営業利益	26億円	+5.6億円	+27.8%
経常利益	27億円	+7.3億円	+37.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	20億円	+0.1億円	+0.8%
E B I T D A	43億円	+9.3億円	+27.3%

ここから先は、毎年「最高売上・最高利益更新」

当然、配当も・・・

配当方針

純資産配当率
(DOE) **1.5%** 以上

連結配当性向 **30%** 目処

一株当たり
配当額(円)



2020年11月期
年間16.0円
(前期比+3.0円)

期末配当
予想

9.0円

中間配当
予想

9.0円

年間配当
予想

18.0円

今後とも ご支援のほど
よろしくお願ひ致します

